

ITSシンポジウム企画セッション 「北陸地方における自動運転の取り組みと課題」



金沢大学 新学術創成研究機構 自動運転ユニット
ユニットリーダー 菅沼 直樹

北陸地方における自動運転の例

- 石川県珠洲市
 - 石川県輪島市
 - 石川県金沢市
 - 福井県永平寺町
 - 富山県 南砺市
- など多数の実施



自動運転への期待と課題

- 公共交通機関の不足
 - 観光客増加による需要増
 - 高齢過疎化によるドライバ不足, 経済性
- 自動運転の課題
 - 地方部での課題: 交通ルールの希薄さ
 - 雪国ならではの課題: 大雨, 降雪, 融雪装置など



自動運転をサービスとして実活用するためには？

- 自律型vsインフラ依存型（路車協調）
 - 早期導入への期待
 - 技術の未成熟さ
- ビジネスモデル
 - デモではなく実運用
 - 柔軟な走行vsロバストな認知判断
 - 車載技術の高度化とインフラの維持管理
 - 現状の技術レベルと社会の期待の間のギャップ
 - 安全性，経済性と社会受容性
 - 自動運転を導入すればすぐにHappyは幻想
 - 自動運転はあくまでモビリティーツール
 - 場合によっては自動運転以外の切り口もありうる



登壇者

■ モデレータ

■ 菅沼 直樹

- 金沢大学 新学術創成研究機構 自動運転ユニットリーダー, 教授

■ パネリスト(敬称略)

■ 加藤 晋「ラストマイル自動走行の実証評価(永平寺町)などの取り組みと課題」

- 産業技術総合研究所 情報・人間工学領域知能システム研究部門 首席研究員, (兼 端末交通システム研究ラボ 研究ラボ長)

■ 藤吉弘亘「自動運転のための深層学習と課題」

- 中部大学 工学部ロボット理工学科 教授

■ 中富 大輔「石川県における自動運転」

- 石川県商工労働部 産業政策課長

■ 松山 耕輔「移動のミライ」

- 日野自動車株式会社 商業CASE推進部 主査





進め方

- 各パネリストの取り組みの紹介
 - 各10分程度×4件
 - 会場からの質問はパネルディスカッションで
- パネルディスカッション
 - 40分程度
- まとめ